

水きらら

今回の水きらら臨時号では、広報いながわ 8月号で取り上げた上下水道事業の運営状況について、さらに詳しい内容をお伝えします。

Q1 これまでどのようなことをしてきたの？



広報いながわ8月号はこちら



素材引用元：
水道 PR パッケージ (日本水道協会)

日本水道協会キャラクター
Dr. すいどー

A 水道事業

① 老朽管の取替工事を実施しました

昭和49年度の給水開始以来約50年が経過しており、水道管の老朽化が進んでいることから、漏水のおそれが高い水道管や重要度の高い路線を対象に、優先順位を設定して取替工事を進めてきました。このように、漏水の予防と水道管の耐震化を図ることで、安全・安心な水道の維持に努めています。



取替工事

② 全ての給水鉛管の取替工事を実施しました

かつて加工しやすい材料であった鉛管が、各家庭に引き込まれる給水管として全国的に使用されていました。しかし、鉛が溶け出すことへの健康被害が指摘されるようになったこと、漏水が頻発するようになったことを受けて、平成16年度から平成20年度にかけて全ての給水鉛管の取替工事を実施しました。



耐震化工事

③ 基幹施設の耐震化工事を実施しました

地震などの緊急時に配水池から水が漏れないように作動する、緊急遮断弁を設置する工事を進めてきました。伏見台低区配水池については平成27年度に、白金高区配水池については平成28年度に工事が完了し、緊急時に水を確保できるようになりました。

④ 施設の自動運転や民間委託を進めることで、人件費を削減しました

平成19年度に笹尾浄水場を無人化し、役場第2庁舎へ監視機能を一元化するとともに、施設の運転や維持管理について民間委託を実施することで、業務の効率化と人件費の削減を図りました。

このような取組みの結果、水道事業の職員数は平成15年度の12人から令和4年度時点で5人へと大幅に減少し、効率的な事業運営を行うことができています。



中央監視所

A 下水道事業

① 下水道の整備を促進してきました

昭和57年度の供用開始以来、継続的に下水道整備を進めてきた結果、令和4年度末には下水道普及率が99.0%に達しました。これは全国的にも高い水準となっています。

② 猪名川流域下水道へ参画しました

本町は猪名川流域下水道※に参画しており、下水処理には豊中市の原田処理場を利用しています。そのため、町内に処理場を設ける必要がなく、維持管理費や人件費を削減し、効率的な事業運営を行うことができています。

(※) 猪名川流域下水道とは、淀川水系猪名川の流域を処理区とした流域下水道で、猪名川町、伊丹市、川西市、宝塚市、豊中市、池田市、箕面市、豊能町の下水処理を行っています。

上下水道事業は独立した企業であり、

皆さまからいただいている水道料金・下水道使用料で事業を運営しております。

一部の繰入金を除き、税金の投入はありません。

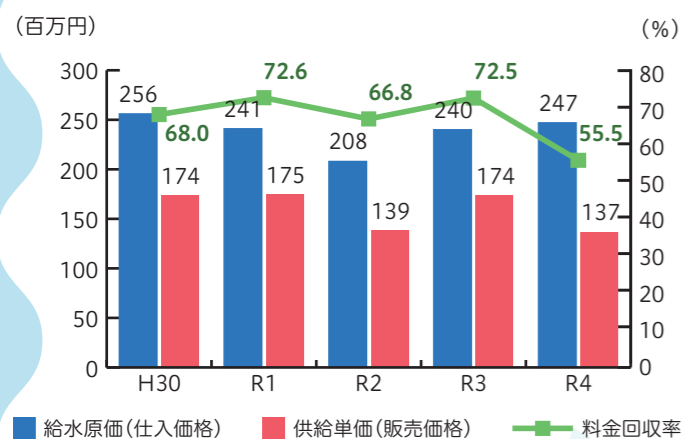


Q2 現在、そして将来の上下水道事業はどうなるの？

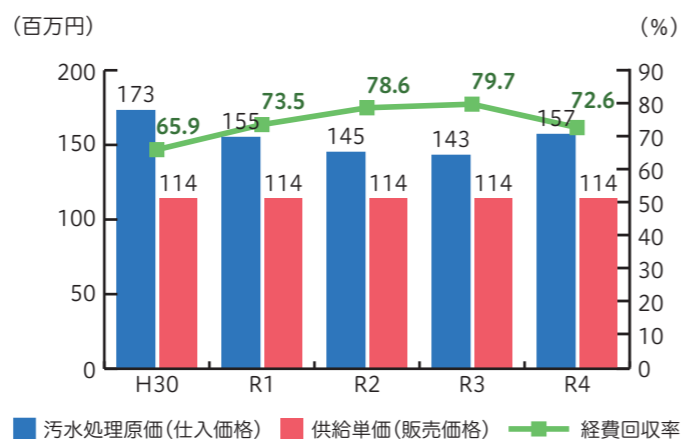


現在、供給単価（販売価格）が給水原価及び汚水処理原価（仕入価格）を下回っており**料金回収率が100%を大きく下回っています**（=料金収入で費用を賄い切れていない）。このため**赤字の状態が続いています**。赤字については、**基金を取り崩すことで補てんしてきました**。

給水原価と供給単価の比較



汚水処理原価と供給単価の比較



近隣市との料金格差を是正するため当時の豊富な基金を財源に、**平成15年度に水道料金の値下げを実施しました**。

〈平成14年度までの料金表〉(税別)

口径	基本料金		従量料金	
	1月当り使用水量	料金	11~20m³	150円/m³
20mm以下	10m³まで	1,700円	21~30m³	180円/m³
25mm以下	20m³まで	3,600円	31~50m³	210円/m³
30mm以下	40m³まで	7,600円	51~100m³	270円/m³
40mm以下	70m³まで	15,100円	101m³~	300円/m³
50mm以下	100m³まで	24,000円	ただし、従量料金は各口径の基本水量を超える水量に適用する。	
75mm以下	200m³まで	55,000円		
臨時用	1m³当り300円(各口径の基本水量は上欄と同様とする)			

〈平成15年度以降(現在)の料金表〉(税別)

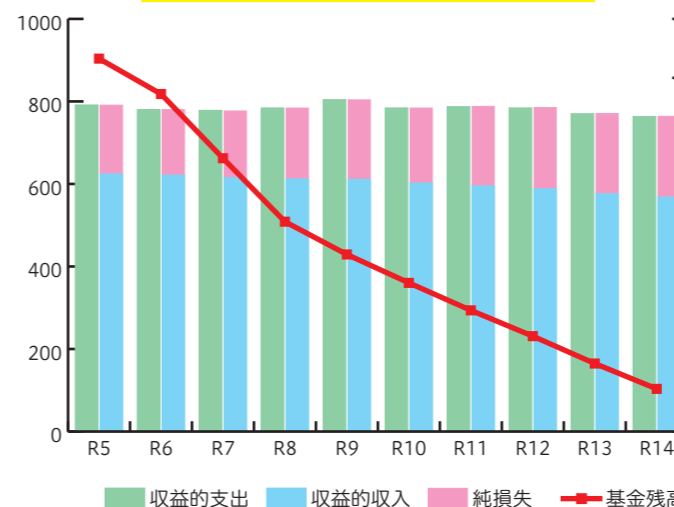
口径	基本料金		従量料金	
	1月当り使用水量	料金	6~10m³	140円/m³
20mm以下	5m³まで	700円	11~20m³	150円/m³
25mm以下	20m³まで	3,600円	21~30m³	180円/m³
30mm以下	40m³まで	7,600円	31~50m³	210円/m³
40mm以下	70m³まで	15,100円	51~100m³	270円/m³
50mm以下	100m³まで	24,000円	101m³~	300円/m³
75mm以下	200m³まで	55,000円	ただし、従量料金は各口径の基本水量を超える水量に適用する。	
臨時用	1m³当り300円(各口径の基本水量は上欄と同様とする)			

A 非常に厳しい経営状況となっており、料金の値上げが必要です

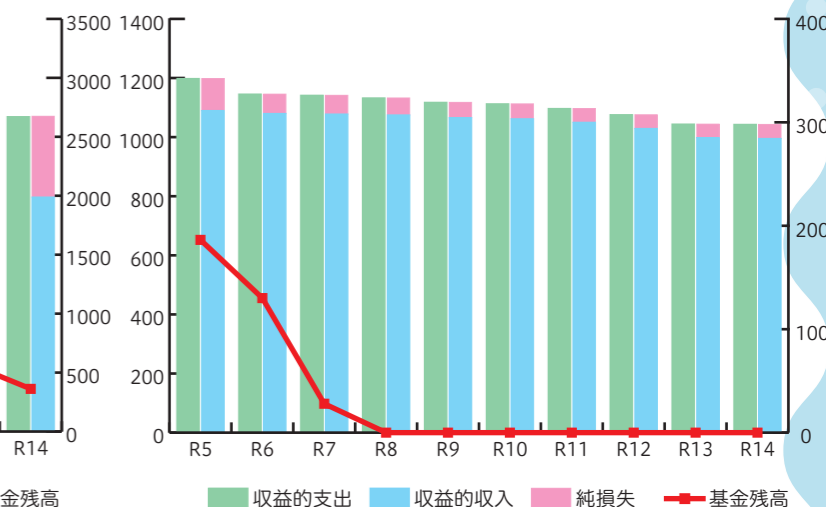
将来についても、収支シミュレーションの結果赤字が続く見込みとなっており、このまま基金を取り崩し続けると、水道事業については令和15年度に、下水道事業については令和8年度に、**基金が底をつくことが予測されます**。



収支シミュレーション(水道事業)



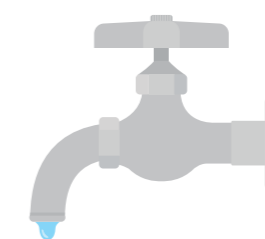
収支シミュレーション(下水道事業)



基金は、施設の改修・更新の財源としてだけでなく、震災などの非常時の備えとしても重要です。そのため、事業を将来にわたって安定的に運営するためには、一定の基金残高を確保する必要があります。しかし…



①急速な少子高齢化に伴う人口減少



②節水機器の普及と性能向上による水需要の減少



③過去に建設された施設や上下水道管の老朽化による更新費用の増加

今後も厳しい状況が続くことが予想されています。これらの課題を解決し、持続可能な上下水道を維持していくためには、料金の値上げは避けられません。

Q3

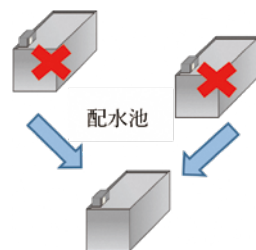
上下水道の未来を守るために、これから何をしていくの？



A 水道事業

① 施設の統廃合を実施します

今後予想される人口減少に伴い、水需要が減少することが見込まれることから、小規模な配水区域の水道施設の統廃合に取り組み、施設の効率化を目指すことで、維持管理費に加え、将来の更新費用の削減を図ります。



統廃合イメージ図

素材引用元：水道 PR パッケージ（日本水道協会）

② 県水を活用します

本町の水道は、兵庫県企業庁が運営する多田浄水場で作られた水（県水）が約9割、本町独自の笹尾浄水場と清水東水源井で作られた水（自己水）が約1割となっています。これ以上の自己水を確保しようとする場合、新たなダム等の水源開発が必要となり、現実的ではありません。

今後施設の統廃合が進む中で、多田浄水場（県水）の水需要がさらに増加する見込みですが、安定供給に対応するよう、兵庫県企業庁が整備中の三田西宮送水管（連絡管）の早期完了について、引き続き要望していきます。



多田浄水場

A 下水道事業

① 老朽化対策を進めます

昭和57年度の供用開始以来約40年が経過しており、下水道管の老朽化が進んでいます。このことから、経年劣化が進んでいる下水道管や重要度の高い路線を対象に、優先順位を設定し補修工事を実施していきます。

また、猪名川流域下水道の原田処理場についても、機器の改築更新や施設の耐震化等を計画的に進めていく予定です。



原田処理場

② 不明水対策を進めます

不明水とは、下水道の汚水管に流入する雨水や地下水を指します。不明水の流入が原因で排水能力を超えた水が流れた場合、大雨時にはマンホールから汚水があふれる、トイレから逆流するといったリスクが高まります。

不明水を減少させ、これらのリスクを軽減するために、今後も継続的に不明水対策に取り組んでいきます。



不明水イメージ図

町長から 町民の皆さまへ

『上下水道事業の未来を守るために』



私たちの生活に欠かせない上下水道。その未来を守るために、これまで経営改善に向けた様々な取り組みを進めてきました。

しかし、上下水道事業の運営は依然として厳しい状況が見込まれており、今後も安定的かつ継続的に上下水道サービスを提供していくためには、料金・使用料の改定が避けられない状況です。

料金・使用料改定を先送りすると、将来的な負担がますます増大する恐れがあり、このままでは上下水道サービスの維持が困難となり、町民の皆さまの生活基盤が脅かされると危惧しています。

私たちは、未来の世代に向けて、安心して上下水道を利用できる環境を残したいと考えています。このためには、皆さまのご理解とご協力が必要です。共に、持続可能な上下水道事業の実現を目指していきましょう。